

学習者の心理面からみたNLP学習の授業分析（1）

—NLPに対するイメージ調査—

中川 麻織^{*1}, 赤松 辰彦^{*2}

<概要>本研究では、NLPに関する資格取得講座において「NLP」に対するイメージを調査した。さらに、そのイメージがNLP資格取得講座における学習内容の自己認識に及ぼす影響を分析した。
<キーワード>学習評価, 授業分析, キャリア教育, 生涯学習, NLP, イメージ調査, SD法

1. NLPとは

NLPとは、Neuro-Linguistic Programming（神経言語プログラミング）の略である。創始者のリチャード・バンドラー、ジョン・グリンダーによって開発され、別名「脳の取扱説明書」ともいわれている。望ましい状態にむけて脳を最適化することを目的にしている。

そこで、筆者らは、NLPを以下のように定義する。「人間は、感覚（五感＝視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚）と、言語／非言語で事象を判断し、脳内で意味づけすることにより、物事を認識し、記憶する。そして、その認識や記憶は主観的判断からくる体験をある枠組みのなかに当てはめることで、目の事象に対して判断し行動する。この脳内での情報処理を最適化することは、目の事象を最適に判断し行動を支援する、すなわち、問題解決の最適化につながる。NLPはこのような問題解決の最適化することを支援するプログラムである。」

2. 目的

本研究では、NLPに関する資格取得講座において「NLP」に対するイメージを取り上げ、これらの様相はどのようなものか分析する。さらに、そのイメージがNLP資格取得のための学習内容が自己認識に及ぼす影響を考察する。

3. 「NLP」のイメージに関する予備調査

予備調査の目的は、「NLP」に対するイメージを調べ、本調査の質問項目作成の資料とすることである。調査方法は質問紙調査法で行った。

事前調査は最初の授業で33名（男性7名、女性26名）の受講生に実施した。

調査時期：平成29年1月16日～2月4日

調査場所：京都、梅田、天王寺

対象者：米国NLPTM認定プラクティショナーコース受講者（NLP講座初心者）

4. 予備調査結果

(1)「NLPという言葉をしていましたか?」という質問肢に対する回答

知っていた	5名
聞いてことはあった	5名
知らなかった	23名

(2)「Neuro-Linguistic Programming (NLP)という言葉自体に対するイメージはどういうものですか?」という質問肢に対する回答（複数回答可）

かっこいい	7名
難しい	14名
よくわからない	14名
楽しそう	8名
高額	2名

怪しいイメージ、気持ちに余裕ができる、未来が明るく見えてきそう、コミュニケーションという回答が各1件あった。

(3)「NLPを活用できたら仕事に効果はあると思いますか。」という質問肢に対する回答（事前調査のみ実施）

かなり効果がある	17名
効果がある	13名
どちらかといえば効果がある	0名
どちらかといえば効果がない	0名
効果がない	0名
全く効果がない	0名
わからない	1名
無回答	2名

(4)「あなたがNLPの本コースに参加した動機を教えてください。」という質問肢に対する回答

心理学に興味があった	9名
仕事に活かしたい	6名
自分を変えたい	4名
コミュニケーションを高めたい	3名
自分を知りたい	2名
人の気持ちを知りたい	1名

*1 NAKAGAWA Maori :株式会社シグナス e-mail= nakagawa@sign-us.jp

*2 AKAMATSU Tatsuhiko :株式会社シグナス e-mail= akamatsu@sign-us.jp

スキルアップ 1名
資格取得 1名

5. 「NLP」のイメージの本調査

調査時期：平成29年4月17日および6月4日

調査場所：京都，梅田

対象者：米国NLP™認定プラクティショナー
コース受講者（NLP講座初心者）

男性9名，女性19名，計28名

調査方法：印象評価のための26項目の形容詞対
に対し，5件法による質問紙調査を
行った。

調査に用いた形容詞対は，①かたいーやわらかい，②現代的なー古典的な，③理性的ー感情的，④興奮するー興奮しない，⑤賢いー愚かな，⑥すっきりしたーごちゃごちゃした，⑦理想的なー現実的な，⑧客観的なー主観的な，⑨優しいー厳しい，⑩易しいー難しい，⑪自然なー人工的な，⑫能動的なー受動的な，⑬親しみやすいー親しみにくい，⑭繊細なー大胆な，⑮高尚なー低俗な，⑯美しいー醜い，⑰進歩的なー保守的な，⑱魅力のあるー魅力のない，⑲あたたかいー冷たい，⑳生活の役に立つー生活の役に立たない，㉑仕事の役に立つー仕事の役に立たない，㉒将来性があるー将来性がない，㉓面白いーつまらない，㉔便利なー不便な，㉕高いー安い，㉖やりがいがあるーやりがいがない，である。

回答方法は，形容詞対で左の形容詞に対して「とてもそう思う」場合は1，「そう思う」場合は2，「どちらでもない」場合は3，右の形容詞に対して「そう思う」場合は4，「とてもそう思う」場合は5を記入させた。

これらの回答結果をSD法で分析した。

6. 本調査結果

印象評価のための26項目の形容詞対に対し回答した各項目の平均値を求めた。これらの平均値に対する全体平均値を求めると2.4となった。次に，全体平均値より平均値が小さいグループと大きいグループに分け，それぞれのグループの平均値を求めたところ，平均値の高いグループの平均値は2.8，低いグループの平均値は2.0となった。

さらに，平均値の高いグループを平均値2.8より大きいグループと小さいグループに分けた。平均値の小さいグループに対しても同様のことを行い，形容詞対を4グループに分割した。

ここでSDプロフィールを図1に示す。

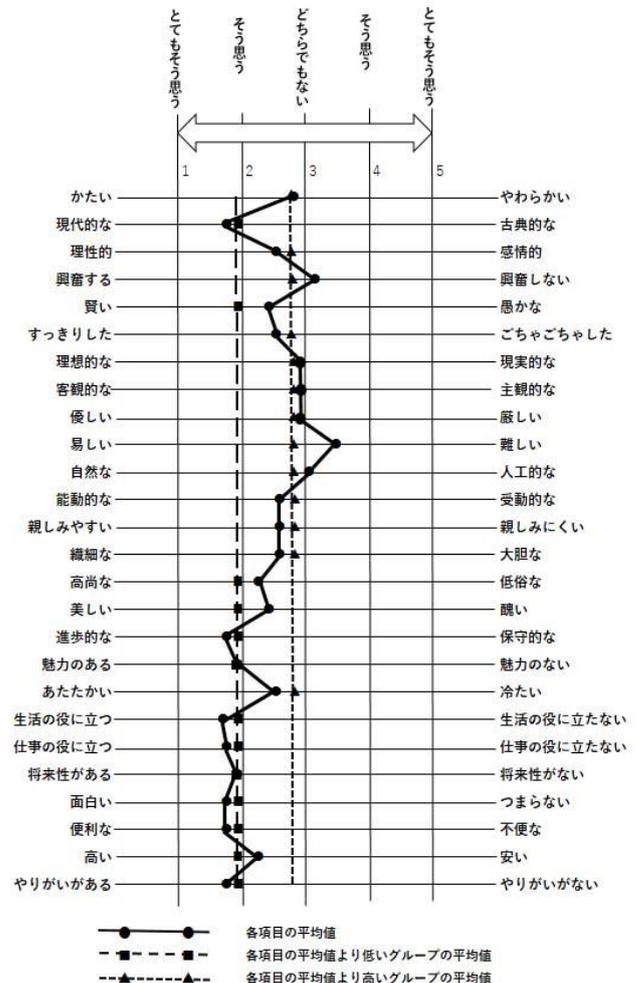


図1 NLPに対するSDプロフィール

7. 考察

今回は回答者数が少ないため十分な分析ができたとは言えないものの，本調査で述べた形容詞対②⑩⑪⑭⑲⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖のグループの平均値が1.8と一番低かった。すなわち，受講者はNLPのイメージに関して「現代的な」「進歩的な」「生活の役に立つ」「仕事の役に立つ」「便利な」「面白い」「やりがいがある」と考えていると言える。

なお，平均値が一番高いグループの形容詞対④⑦⑧⑨⑩⑪の平均値が3.0であることから，これらの形容詞対の尺度に関してはあまり意識していないようである。

今後は平均値が一番低いグループに該当する形容詞対を回答した受講者に着目し，授業改善に役立てていきたいと考える。